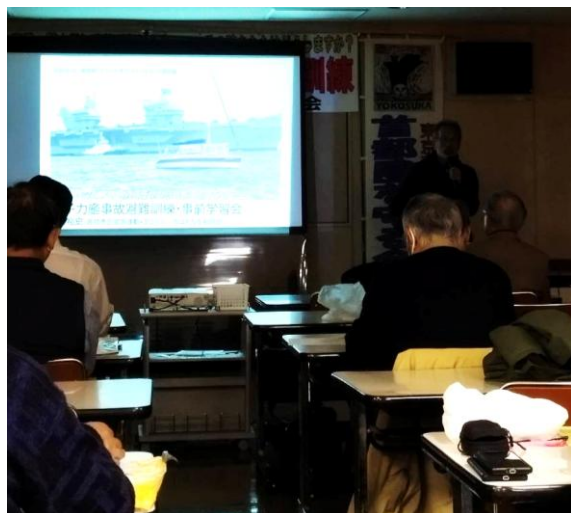


原子力艦事故避難訓練に参加しました！

11月22日、東京湾の原子炉から首都圏を守る会（以下守る会）主催の「2025原子力艦事故避難訓練」が開催され、44名が参加しました。

原子力艦が横須賀港入港時に、放射能漏れが発生したことを想定して避難訓練を行いました。

前段で原子力空母の横須賀母港化問題を考える市民の会、呉藤正彦弁護士から「危険な海上自衛隊への原子力潜水艦導入問題」、ヨコスカ平和船団／非核市民宣言運動・ヨコスカの新倉裕史さんから講演をいただきました。現行の法令に対して違反性があること、それを回避するために自衛隊法95条の改定など、この10年あまりの間に安全保障政策が大きく変化したことが伝えられました。



講演会の後、京急汐入駅付近から米海軍横須賀基地前を通り、横須賀中央駅前にかけて横須賀市の中心部を約30分にわたりパレードを行いました。目に見えない放射能から身を守ることをアピールするために防護服や雨ガッパを着てマスクをつけて歩きました。横須賀では基地周辺には日本人が住んでいないことなどを理由にして市民参加型の原子力艦事故避難訓練が行われていません。また、20代以下の若者の大多数は横須賀に原子力が存在していることを知りませんでした。それらの現状を打破すべく、パレードを行いながらビラを配布して市民に広く原子力艦船の問題を訴えてきました。

私たちの生活と命を脅かす全ての原子力にNO！ 安心して平和に暮らせる世の中を守ろう！